

The 12th IAGG Master Class on Ageing in Asia 体験記

大内 修司

(日老医誌 2024 ; 61 : 498-499)

2024年5月22日~24日に東京大学で開催された Master Class on Ageing in Asia (MCA) に参加させていただきました。私は現在卒後11年目で老年病内科に入局後、改組された総合診療科に現在は従事しており、社会人大学院生としてサルコペニア・嚥下障害に関連した研究にも取り組んでおります。科内の老年科専門医の先輩方より MCA に参加された際の話をかねてより伺っていたこともありいつかは参加させていただきたいと思っていたところ、この度5年振りに国内で開催されると聞き及び申し込ませていただきました。

今回の MCA は3日間で計8つのレクチャーとスモールグループに分かれてのケースディスカッション・ポスターセッションが行われ、レクチャーでは転倒、認知症、ポリファーマシー、せん妄、老年期うつ病、フレイル、低栄養についてご講義いただきました。いずれのセッションも基礎の再確認から最新の知見・ガイドラインについてまで非常に分かりやすく解説していただいたことに加え、英語表現についても非常に勉強になりました。

ケースディスカッションでは Dr. Ashish Goel にご用意いただいた症例を、Dr. Koichi Kozaki と Dr. Chang Won Won の司会の下で検討しました。もの忘れ・食思不振で受診したが掘り下げていくと肺外結核が判明した82歳女性、という症例を転倒予防・認知症のセッションを受けた後に取り組むあたりはまさに実臨床といった趣で非常に興味深く取り組ませていただいたとともに、高齢者の結核が日本のみならずアジア各国でも重要なトピックであることを改めて認識しました。

Day 2 のポスターセッションではスライド・ポスターで各自の研究について発表しました。各国のフレイル・認知機能に関連した研究から COVID-19 流行下での遠隔診療、JICA スタッフとして他国のソーシャルワーカー



ングに取り組んだ報告まで多様な研究に興味深く拝聴しました。私自身は初めての英語による研究発表であり、余り一般的ではない事項について英語で改めて説明することの難しさを強く実感しました。

Day 1・Day 2とも夜には食事会があり、Day 1は東京大学内のレストランを貸し切って、Day 2はグループ

ワークのメンバーと本郷の居酒屋で、どちらも非常に楽しく過ごさせていただきました。特に Day 2 の夕食会は既にある程度仲良くなったメンバーとテーブルを囲んでいたこともあり、正直に言って speaking にだいぶ不安があったまま参加した身ではありましたが、英会話への苦手意識はだいぶ軽減された状態で楽しむことができました。Day 1 の二次会で国内の Dr らと親睦を深めら

れたのも僥倖でした。

改めまして、この度このような機会を与えて下さった The International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) や日本老年医学会、そして国立長寿医療研究センターの関係者ご一同に心より感謝を申し上げます。